ジオパークを目指す山陰海岸

San-in Coast aiming at the Geopark

馬場 雅人 [1]; 波田 重熙 [2]
Masato Baba[1]; Shigeki Hada[2]

[1] 新温泉町; [2] 神女大・文
[1] Shin-Onsen-chou; [2] Kobe Women’s Univ.

山陰海岸は、ジオパークとしての認定を目指して活動している。山陰海岸は、京都、兵庫、鳥取の３府県にまたがる、東西の延長約８０ km に及ぶ主として岩石海岸からなる海岸地帯である。平成１３年には山陰海岸をユネスコの世界遺産にしようという運動が地元有志により始まったが、国内の候補地の一つには選ばれたものの、日本からユネスコに申請するリストの中には残れなかった。しかし、その価値を地域住民が認識することはもとより、地球環境について実地に学べる貴重な公園として世界の人々に認知してもらい、新たな地域づくりに活かしていくことが重要と考え、現在はジオパークとしての認定を目指して有志の会が発展して地域ぐるみで草の根の運動を続けている。

これまでの活動としては、山陰海岸の魅力や学術的価値を紹介し、ジオパークの意義について知ってもらうために、各種フォーラムの開催、印刷物の出版、CD-ROM の作成・配布（北アイルランドで開催された第２回世界ジオパーク会議で紹介）などの活動を行ってきたが、ジオパークの認証に向けた今後の活動を、以下のように進める。

1. 山陰海岸ジオパークの目的
   山陰海岸の地域内に存在する地質的・地形的あるいは文化的資源を、地域住民、行政、民間企業が連携・協働して、特徴的・魅力的なジオツーリズムとして構築し、地球環境への理解を深める場とするとともに、地域経済の活性化と環境保全に資することによって、持続可能な地域社会の発展を目指す。
2. 潜在的ジオパーク
   山陰海岸国立公園には、天然記念物・玄武洞、名勝・香住海岸、名勝天然記念物・但馬御火浦、名勝・浦富海岸が含まれている。山陰海岸がジオパークに認証されれば、それらの魅力や価値をさらに高めることができる。
3. ジオパークと組織
   ジオパークに賛同する人々や組織の活動基盤となる ”ジオパーク推進協議会 ”の設置が必要と考え、兵庫・鳥取県の一市五町でつくる「因但県境自治体会議」がすでに発足したが、今後地球科　学専門家、県、自治体、旅行会社、観光協会などの参画を積極的に進める必要がある。
4. 具体的な取り組み
   - 山陰海岸ジオパーク推進協議会は、既存の関係資料の収集・整理を行い、欠けている資料の調査・整備を実施
   - 地元大学、学会、関連団体との連携体制の構築と、NPO 地質情報整備・活用機構、環境省、文部科学省、国土交通省などとの連絡・調整
   - 認定申請書類の作成準備
5. 今後の課題
   - 日本におけるジオパークの推進体制
   - 地球科学専門家等人材の確保
     地元大学や産業技術総合研究所などとの連携
   - 関係自治体・企業・地域住民等の合意形成
   - 地域経済の持続可能な仕組みづくり
   - 財源の確保
   - 推進組織の設立と事務局体制の整備

山陰海岸は、日本列島誕生のダイナミクスを陸上あるいは海上から、大規模な露頭で直接連続的に観察できる場所であり、自然あるいは地球に対する畏敬の念をみんなが呼び戻すにはまたとない場所である。その意味で山陰海岸は、現在人類的課題となっている、地球環境問題の理解・普及に重要な場となるばかりでなく、特徴的・魅力的なジオツーリズムとして構築できる資源を有している。将来的には、日本海の形成と地球環境の変遷をテーマに、大陸地域とのネットワークの構築も可能である。国際惑星地球年の日本における一つのアウトリーチとなれるよう、山陰海岸はジオパクの認証に向けて活動を活発化していく。